



# 平和統一NEWS



平和統一聯合  
第七連合会  
機関紙  
第6号

平和統一聯合第七連合会（兵庫・岡山・鳥取）  
〒650-0022 兵庫県神戸市中央区元町通 7-1-2  
ネオアージュ神戸元町 1001号  
TEL. 078-360-0757 FAX. 078-367-4323  
HP : <http://fpu7.main.jp/> E-mail: [fpu7@bh.main.jp](mailto:fpu7@bh.main.jp)

発行 平和統一聯合  
第七連合会  
発行人 趙希秀  
2009年2月1日

## 第13回料理講習会 開催 (兵庫県)

2009年最初の料理講習会を1月17日に開催しました。開催場所ピフレホールに置かせてもらった案内チラシを見て参加された方3名を含め、5名の人が新しく参加されました。今回はブデチゲ（部隊鍋）と韓国の伝統お菓子を作りました。お菓子に関しては、少し手間取った様子もありましたが、2品ともそれぞれが時間内に完成して、試食会では非常に好評でした。

また、韓国からお嫁にきた婦人は、韓国ではよくブデチゲをお店に食べに行きましたが、自宅で作れるとは思っていなかったと、非常に感激していました。

次回2月21日には、旧正月15日に作る韓国料理（デボルムシクタン）を作ることを紹介して終了しました。



## 岡山県本部 新年会開催

岡山県本部では、1月24日土曜日、岡山市西ふれあいセンターにて、在日15名を含む50名が参加し、2009年の新年会を開催いたしました。

小泉政幸副会長の司会のもと、昨年の麗水と巨文島紹介のビデオ上映、横畑茂顧問、李玉姫会長の新年の挨拶の後、エンターテイメントとして音大生のバイオリン3曲、在日岡大生グループによる歌3曲が披露され、横谷諮問委員の乾杯の後、参加者がそれぞれ一品持ち寄った豪華な昼食会が開かれました。



2テーブルに置かれたさまざまな料理・フルーツ・ドリンクを楽しみながら新年の会話も弾み、午後1時から新年会のメインであるカラオケ大会に入りました。この新年会のために7万曲（内：韓国の歌1万曲）のカラオケ機を購入、カラオケ大会は午後3時過ぎまで続きました。新年会での最初のカラオケでしたので遠慮がちな方もおられましたが、多い方は6曲から7曲歌われ、時間があっという間に過ぎました。（写真：馬場雄二）

在日と韓国人が多い新年会として当然ですが、韓国の歌が全体の8~9割を占め、故郷を思い、踊りながらの新年会は大盛況の内に終了いたしました。最後に2013年までの祖国統一を願い、輪になって統一の歌を歌い、記念写真を撮り終了いたしました。



## 兵庫県本部 新年会開催

兵庫県本部は、1月25日（日）にU-BOU神戸東門店において新年会を開催しました。最初に趙希秀会長の挨拶で始まり、早速それぞれの参加者が自慢ののどを披露しました。予定はPM2:00から3時間でしたが、タイムリミットのPM6:00ぎりぎりまで熱唱しました。途中、韓国婦人が韓国民謡を5曲連続で歌ったときは全員が踊って楽しみました。最後に、曹小煥副会長の挨拶があり、2月7日の賢仁会の2009年度の第1回集会を案内して終了しました。



## 主張

## 『祖国の分断と統一』

何故、祖国の平和統一なのか？ それは、祖国が分断しているからだ。そして、その分断の直接的原因が戦争だからである。戦争の悲惨さと分断の悲劇が身に沁みた民の結論なのだ。

祖国の近現代史を振り返ってみると、亡国・光復(日帝支配からの解放)・戦争・休戦・分断と続き、今日に至っている。この一連の流れに共通するものは、周辺諸国との絡みが強いことである。つまり統一においても、周辺諸国が利害関係により介入してくることは、当然予測される。現に、北の核問題・拉致問題を見ても顕著に現れている。

大韓帝国の重臣達の権力欲が侵略の隙を作り、亡国に至った。先賢達の独立運動の努力はあったが、結局は日本の敗戦により光復を迎えた。が、日帝支配の過酷さが生んだ自主独立の体力喪失が元で、戦勝国のアメリカと(日本参戦を根拠に極東の地に拠点を模索する)ソ連による信託統治が5年続き南北戦争が勃発した。釜山という徳俵で必死に凌いでいた韓国軍が、米軍を初めとする16カ国による連合軍の参戦で挽回をなした後、中国軍の参戦で再び混戦となり、休戦に至った。その結果、今日まで分断が続いている。

分断は直接的には休戦条約によるものである。北は長らく、休戦条約の相手側つまり連合軍側の代表である米国と条約を結んだと主張してきた。連合軍参戦以降、韓国軍も連合軍の一員として戦った。休戦条約も連合軍の一員として調印に同参しているのである。

統一に必要なことは、主体的意識である。祖国を一日でも早く平和統一したいという意識である。自分の権力誇示のための我欲からでもなく、自然の成り行きに任せたりするのでもなく、他国の干渉に委ねるのでもない、はっきりと自主的な平和統一を成そうとする気持ちと努力が一番必要である。

祖国の平和統一は、南北当事者が先ず主体的に努力し平和的に和合・統一を推進するのが原則である。国内・海外同胞7000万が一丸となって祖国の平和統一に同参したプロセスを取るべきである。その上で、周辺諸国の理解と協力が必要なのである。

海外同胞の祖国の平和統一に対する重要な役割を2点挙げるならば、1点目は祖国の政府・同胞達の統一への意識を高める刺激体になると共に、物的援助の協力も必要だろう。その為にも海外同胞間の連携が必要となってくる。2点目は、居住国の政府と国民に理解と協力を促す役目である。

海外同胞の中で唯一国籍堅持の同胞が多数暮らしているのが在日同胞である。国籍堅持という立場から、在日同胞は海外同胞連携の基軸となり得る。だがその前に、祖国の分断の影響を受け韓国民団・朝鮮総連に分かれている在日同胞は、先ずは在日の和合を成さなければならない。在日の和合は、海外同胞の連携の要になると共に、祖国の平和統一の刺激体、きっかけになりえるのである。そして在日同胞は、日本の地域住民として日本の地域繁栄に貢献し、更には祖国の平和統一に対して日本の政府・国民に理解と協力を促す重要な役目がある。

在日同胞の皆さん！ 日本の理解ある皆さん！ 日々の小さな一步一步の努力が積み重なってこそ、祖国の平和統一、南北の平和統一に繋がっていきます。これから、我々と共に「平和統一への道」をしっかりと進んで行きましょう!!

## “韓流とオタク”

趙希秀

ブーム(Boom)、急に人気が出たり流行したりするときに良く使う言葉である。このブームは、一過性のものや根付くものがある。その多くは一過性、一時的な傾向が強い。根付くものは、文化を生んでいくようだ。



オタクとは、家(お宅)に閉じこもって趣味に没頭する様子を表した言葉である。高度成長期が過ぎた頃、外には空き地が無くなり、子供に危害を加える

事件がよく起こり公園で遊べなくなったりして、子供たちは家の中で遊ぶしか無くなってきた。だから室内で楽しめるものに時間を過ごすようになってきたのである。そして、少年、青少年、大人になってもその習性が変わらず、自然にオタク化していったようである。

ともかくオタクは、一過性のブームではなく、もう既に日本の文化になっている。否、世界の文化と言ってよいだろう。オタク文化の代表に、電子ゲーム、アニメ、パソコン、カラオケ、キャラクターなど挙げればきりが無い。日本発のオタク文化は、いまや世界を席卷している。反日感情の強い国々にも普及している。その国の子供たちにオタク文化が広まり反日感情が薄らいでいる。日本が好きだと言う子供が増えているのである。そしてその子供が大人になった世代も増えている。政治は権力により国民を教育していくが、文化の影響力は政治の権力を超えていくのである。



韓流は日本のみならず、世界に流れている。これも一過性のブームではなく根付き始めているのである。否、もう根付いているものも多い。ドラマは勿論のこと、

キムチ、焼肉と日本の食生活に欠かせないものが多い。韓国旅行を楽しむ人も変わった。ひと昔は、おじさんたちのツアーが大半だったが、いまや女性たちが多く楽しんでいる。それもおばさんたちから若い女性まで広まっているのである。

韓国語を学ぶ人もずいぶん多くなった。特にドラマを韓国語で直接見たいからとか、韓国旅行で使うからと、ずいぶん動機が根強いのである。だからちょっとやってみようでなく、結構続いていくのである。学生たちも韓国関係を専攻する人が少しずつ増えている。つまり韓国関係が専門で食べていける時代がやってきたという意味である。



とにかく文化には国境が無い。鎖国政策を取らない限り、止めようが無いのである。世界のグローバル化が進み、インターネットで瞬時に全

世界を旅することができるのである。世界のデータがいつでも検索できる時代になったのである。

インターネットの世界では、既に国境が無いのである。素晴らしいことである。だから逆に、自分自身をしっかり見つめ直さなければならないのである。自分を見失わないようにしなければならない。急に広いところを自由に歩き始めると、道を迷うことになりかねない。そして自由の中にも原則があり、つまりルールを守らなければならないことがあるのだ。

韓流とオタク、弊害が無いとは言わないが、このことで、両国の壁が少しでもなくなっていけば、大いに奨励すべきことだと言えよう。

## 交流の広場

曹小煥

僧・行基菩薩

(奈良時代の高僧 668-749)のこと

2008年秋、韓国から有縁・無縁の人々が波状的に日本に住まふ私を訪ねて渡来?してきました。大阪、京都など各地を案内して差し上げるのですが最も力を入れるのは奈良でした。当然、東大寺が中心になります。

曖昧な、怪しげな韓国語で説明をするのですが、その時は思わず時間の経るのも忘れてしまいます。ウリナラマル(祖国の言葉)は心を安らかにさせてくれます。西暦700年といえは韓半島から高度な文化を日本にもたらした百済と高句麗が滅亡して間もないころです。行基の一族は戦乱をのがれ祖父の代に日本列島に渡りました。彼は現在でいう在日の三世で定住外国人として暮らしていました。彼が渡来人の子であるということを現在の日本人や在日はまったく知りません。東大寺建立のとき弟子の二世・三世を率いてその立役者となり大仏を作りました。日本の歴史上、生きながらにして「生き仏」としてあがめられ菩薩と称され信仰を受けていたのです。弟子を率いて日本全国に数多くの池溝を開き橋を作り、布施屋(学校・病院・寺院など)を建てるなど社会事業に努めました。現在に菩薩(弥勒)が在せばきっと日本と韓国の間には橋やトンネルをつくり民族間の自由な往来を現実のものとするに違いありません。そうならば寝袋ひとつを背にして無欲無所有の精神に徹し食を乞ひ、野に宿す旅をしたいと思うのです。現今の日本に、行基菩薩のような聖(ひじり)人、宗教者が存在しているでしょうか、寡聞にして知る由も聞いたこともありません。(つづく)



『말과글』(言葉と文章)

趙希秀

여러분 안녕하십니까?(ヨロブン アンニョンハシムニカ)皆さんお元気ですか? 또 만났네요.(ト マンナンネヨ)又、会いましたね。

そうそう、韓国語を勉強したいが、難しいから挫折したとか、忙しいから途中で止めたとか言っている貴方、ちょっと耳寄りの話があります。しばし、お耳を拝借。えへん、さてと、準備はOK?

韓国語と日本語はとても似ている、近いのです。だから日本人は韓国語が他の外国人よりとても覚えやすいのです。今からその重要な類似点を教えましょう。

まずは、漢字です。韓国語の語彙の70%以上が漢字語なのです。それも一字一音が原則ですから、覚えやすい。言葉は語彙数が一番重要です。次に、語順が同じです。そして助詞が単語の役割を決めます。これも日本語の助詞とほぼ同じ感覚で使用できます。そして最後に、動詞・形容詞の用言は語尾を変化させて使用します。語尾活用するのです。ここで重要なのが、日本語と同じで、基本形である原型を覚えることと語尾の活用形を覚えることです。難しいと言えばこのところですね。でも日本語ほど不規則な変化はしません。とても原則的です。まっ、とにかく日本人は学ぶ前から潜在的に50%マスターしているのです。一番難しいのは発音です。だから、発音が一番後で頑張ってください。最初からト(ア)ト(イヤ)止めたと言わないでください。それでは頑張ってください。

又、逢いましょう! 또 만납시다!(ト マンナブシダ). さよなら. 안녕히 계세요(アンニョンヒ ケセヨ).  
バイバイ! 안녕(アンニョン)! (´・`)/~

活動内容

1月6日 常任理事会	開催
1月17日 第13回料理講習会(兵庫県)	開催
1月22日 常任理事会	開催
1月24日 岡山県本部新年会	開催
1月25日 兵庫県本部新年会	開催
1月29日 兵庫県本部定例役員会	開催

編集後記

□モウ〜(牛の鳴き声) 09年も2月だ。いやはや時間が経つのも早いものだ。原稿と駆けっこをしている気分だ。機関紙を発行して半年が経とうとしている。何とか続くものだなあと感心している。後、半年頑張れば、一周年だ。もう一度気合を入れ直す気持ちで頑張りたい。今後ともよろしく! 그러면 다음 빌 때까지 안녕히 계십시오.(クロミョン タウム ベルテカジ アンニョンヒ ケシプシオ:では次、お会いするまでご機嫌よろしく。) <希>

□本紙もいつの間にか第6号を迎えた。「平和統一NEWS」を手にして思うことは「在日」という言葉である。1933年(76年前)から「在日」をしているが、振り返ってみると、1日として気の休まる日はなかった。

望郷の思いは誰にも負けないが、どこか、もどかしくてならない。本紙の「主張」や、ほかの記事は、読む人の心をほっと安心させてくれる。願わくば、ひとりでも多くの在日に、本紙の存在を知ってもらいたいと思っている。〈雪〉

□長い人類歴史の中で、世界平和実現にもっとも重要な時期、その中心になるべき在日の方々。今このとき、そのことを在日の方々を知ってもらいたい、立ち上がってもらいたい。今後、ひとりでも多くの方々に理解していただき、活動の輪が益々広がり、目的達成への羅針盤となる平和統一NEWSでありたい。 <樹>

イベント案内

2月 5日(木)	第7連合会会長団会議
2月 7日(土)	賢仁会(兵庫県)
2月 8日(日)	啓蒙講座(兵庫県西宮)
2月10日(火)	常任理事会
2月21日(土)	韓国料理講習会(兵庫県)
2月22日(日)	啓蒙講座(兵庫県加古川)

投稿記事募集

交流の広場への投稿記事を募集しています。会員の皆様からのご意見などさまざまな記事を募集いたします。どしどし投稿してください。

FAX. 078-367-4323

E-mail: [fpu7@bh.main.jp](mailto:fpu7@bh.main.jp)